

令和7年度 県立水戸第三高等学校自己評価表

目指す学校像		三高プライドを持ち、未来の社会を担うことができる人財を育成する学校。 ※三高プライド…三高スタンダード(これからの時代を生きる人間として「身につけさせたい5つの力」:知力・知識力、思考力・探究力、協働力、コミュニケーション力、自己実現力)を身につけ、何事にも主体的に取り組み、他者と共生できるしなやかな心。						
昨年度の成果と課題		本年度の重点項目		重点目標		達成状況		
【成果】 ○国公立大学27名、私立大学に延べ337名、看護など公立専門学校に6名、公務員に11名の合格者を出すことができた。 ○男子生徒の積極的受け入れのための広報活動により、今年度も入学者数が増加し、男子生徒が全学年で100名を超えた。 ○ICTを効果的に活用し、生徒が主体的に学習に取り組めるように学習指導委員会を立ち上げ、検討を進める ○部活動は、全国大会に運動部が1つ、文化部が5つの部活、関東大会には、運動部が3つ、文化部3つの部活が参加することができた。 【課題】 ○今後も、多様な進路希望の実現にむけて、進路指導部と各学年が連携し、生徒の自己実現に努める必要がある。 ○男子生徒が増えたことでの学校生活の環境を改善する必要がある。(男子更衣室、男子部活動の部室等) ○学習指導委員会での検討内容の情報の共有と改善を行い、生徒が主体的に学習する環境を整える必要がある。		・自ら学び、自ら考え、自ら探究する力を育む指導 ・大学や企業等との連携を進め、広い視野で物事を考える力を育む指導		①主体的に学習に取り組む態度の育成を目指し、自ら学ぶ姿勢を育む指導に努める。 ②生徒の進路希望を実現できるカリキュラムの検討を進める。		B		
		・高い志の育成を図り、主体的に自己の進路目標を設定させる指導 ・生徒が設定した進路目標を実現する指導		③生徒の学力に応じたきめ細かい進学課外の充実を図ることで、学習意欲を喚起し進路実現に結びつける。 ④進路関係の必要な情報は学校HP等を通じて発信することで、外部情報や本校の取り組みを丁寧に知らせ、進路意識の高揚を図る。 ⑤インターンシップや近隣教育機関と交流する機会を数多く設けるなど、地域との関わりを深めることにより望ましい職業観・勤労観を育む。				
		・主体的に良識ある行動ができる生徒を育む指導 ・社会人として守るべき基本的なルールやマナーについての指導を、全教職員が継続的に実施		⑥基本的な生活習慣を確立させる。 ⑦校則・ルールの意義を理解して主体的に良識ある行動及び落ち着いた生活環境づくりができる生徒を育成するため、分掌・学年及び生徒会等と協働し、全教職員による継続した指導・支援を図る。 内規・校則・ルール、指導手順等の整備・見直しを行い、新任者でも指導しやすい環境を整える。				
		・限られた時間の中で、特別活動や部活動に主体的に取り組ませる指導 ・特別活動や部活動を充実させ、個性を尊重し互いを高め合う集団づくり		⑧文武両道の実現に向け、学習と部活動の両立及び進路実現を可能にする環境を構築する。 ⑨部活動に主体的に取り組む姿勢を育み、各大会での上位入賞を目指す。 ⑩生徒が特別活動の意義を理解し、ホームルーム、生徒会活動、学校行事等の活性化に努める。特別活動においてキャリア・パスポートを活用する。				
		・中学生に対して、学校の教育活動を積極的に発信し、継続的な募集・広報活動を推進 ・学校教育活動への理解と協力促進		⑪学校ホームページや学校案内等を活用し、本校の特色、取組み、成果等最新の学校情報を生徒、保護者、県民に積極的かつ適切に発信し、募集・広報活動を活性化する。 ⑫近隣中学校や学習塾等への訪問や広報活動を展開する。 ⑬学校説明会、学校公開、体験レッスン等の機会を活用し、中学生、保護者、県民等に向けて、教育活動全般を説明するとともに、特色ある専門学科に特化した情報発信にも努め、専門教育への理解の深化を図る。 ⑭教育委員会ホームページの活用や報道機関への記事提供を積極的に行う。 ⑮学年通信や学級通信などを積極的に発行し、学校生活の状況を保護者に伝え、本校の教育活動への理解・協力を促す。				
		・教職員の働き方改革の推進		⑯教員の働き方改革に向け意識改革並びに削減可能な業務の検討等を行い、昨年度より平均月超過勤務時間1時間以上の削減を目指す。				
		・組織的な授業改善の推進		⑰授業改善のための校内研修等を充実させ、授業力向上を図る。 ⑱生徒による授業評価の項目「授業満足度(思考力・判断力・表現力等の向上)」について、3. 5以上を目指す。				
三つの方針		具体的目標				評価	総合評価	次年度への主な課題
三つの方針 (スクール・ポリシー)		「育成を目指す資質・能力に関する方針」(グラデュエーション・ポリシー)		・三高プライドを持ち、未来の社会を担うことができる人財の育成。 ※「三高プライド」とは、三高スタンダードを身につけ、何事にも主体的に取り組み、他者と共生できるしなやかな心のこと。 ※「三高スタンダード」とは、これからの時代を生きる人間として「身につけさせたい5つの力」のこと。 ①知力・知識力 ②思考力・探究力 ③協働力 ④コミュニケーション力 ⑤自己実現力		B	B	・基本的な生活習慣やコミュニケーション能力が感じられない場面がある。 ・三高スタンダードを意識した総探のあり方を考える必要がある。
		「教育課程の編成及び実施に関する方針」(カリキュラム・ポリシー)		・創意工夫を生かした特色ある教育活動の推進。 ・学科の特徴を生かしたカリキュラム開発。		B		・普通科の特色が課題である。
		「入学者の受入れに関する方針」(アドミッション・ポリシー)		・学習活動、学校行事、生徒会活動や部活動などに、他者と協働して主体的に取り組む生徒。 ・自分の進路実現を目指し、継続的に努力する生徒。 ・学科の特性に応じた教育活動に対して、積極的に取り組む生徒。		B		・「何事にも主体的に取り組む」として学習・行事などでいかに進めるか。
		具体的目標		具体的方策		評価	総合評価	次年度への主な課題
教科指導		1学年では基礎学力の定着を図り、2、3学年では、進路希望に応じた学力の向上と、自ら定めた目標を実現する応用力・実践力の育成を図る。		・基礎学力の定着を図るために週末課題等を利用し、家庭学習時間の確保を図る。		B	B	・ICTの活用方法の工夫と、定期テスト以外の評価のあり方も含めた評価方法の検討。 ・基礎学力の向上。家庭学習の定着。 ・指導と評価の一体化をより意識した授業作り。 ・必要備品や設備の管理・充実。 ・より専門性を活かした教科指導への取り組み。
				・学習の個別最適化を図り、主体的な学習態度を育成するために、学習支援動画及び付属教材の活用を促進する。		B		
				・授業への主体的な取り組み、疑問点の解消、将来の目標を見据えた学習計画の実践を促す。		B		
				・各教科・科目で身につけた基礎的な知識・技能を教科横断的に活用する学びをとおして、思考力・探究力の向上を図る。		B		
				・指導と評価の一体化を図った授業作りを工夫する。		B		
				・インタラクティブフォーラムやブリティッシュヒルズでの英語研修など国際理解に関する活動に積極的に参加する。		B		
		自ら目標を立て、目標を達成するために互いに努力し高め合う生徒を育成する。		・英語検定・家庭技術検定・各種コンクール等への積極的な参加を促す。 ・ICT機器を積極的に活用した学びの場を設け、生徒自らが考える(学ぶ)活動を展開する。		B		
教科	国語	国語で的確に理解し、効果的に表現する能力の育成を図る。		・生徒の学力把握と教材研究に基づいた、対話的・主体的な言語活動を展開するよう努める。		B	B	・定期考査以外の評価の在り方についての検討。 ・週末課題などの実施方法について、効果の検証を含めた見直しが必要。 ・情報共有のための時間が十分の確保。 ・評価方法の共有、適切な評価ができているかの検討。 ・希望進路先に合わせた授業内容の再検討。
				・小テスト等を利用し、共通テストに繋がる基礎学力の定着を図る。		B		
				・理解の不十分な生徒には個別指導を実施する。		B		
		家庭学習習慣の定着を図る。		・週末課題を利用し家庭学習の習慣をつけさせる。		B		
				・予習・復習に積極的に取り組ませ、生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識・技能の習得を図る。		B		
				・生徒の進路希望に応じた学力向上を図るとともに、ICT機器の活用習熟に努め、教員の授業力向上を図る。		B		
	地歴公民	生徒の進路希望に応じた学力向上を図るとともに、教員の授業力向上に努める。		・必要に応じて課外授業を実施し、生徒の進路実現に向けた学力の向上を図る。		A	B	・学習の流れを各教科で共有し、習慣化できるように整備する。 ・ICTありきで終わらせず、どの場面での効果を狙うのか、授業デザインとして組み立てられる力を高める。 ・現代社会の課題を多角的に扱うために、科目横断的な視点や探究活動と通常授業の運動を強め、探究的な学びを日常化する仕組みづくり。
				・授業において「話すこと・聞くこと」および「書くこと」の機会をより充実させて、主体的に表現できる力を養う。		B		
				・副教材、プリント学習・小テストの実施による積極的効果的な授業を展開、生徒の主体的な学習を促し学習の習慣化を図る。		B		
		生徒の進路の希望に対応できる学力の充実に努める。		・長期休業中だけでなく、休日課外等で基礎学力の充実とともに問題演習に取り組む。		A		
				・新教育課程に対応した授業内容の研修を進める。		B		
				・ICTを積極的に活用するなど授業の改善と授業力向上に努める。		B		
		生徒の社会認識を深めさせ、主体的に社会の形成に参画しようとする態度を養うために、授業の研究と実践に努める。		・発問等の工夫により、興味関心を喚起する授業に努める。		A		
				・テーマを決めて自ら調べ、まとめることを通じて社会の課題を考えるきっかけを与える。		B		
				・科目横断的な内容を通して、幅広く現代の問題点を様々な視点で捉えられるように工夫する。		B		

教科	数学		ICT機器を活用し、基礎学力の向上を図るとともに、教員の授業力向上に努める。	・ICT機器を積極的に活用し、小テスト等を通して生徒の理解度を定期的に把握する。	B	B	・学力差、個別の目標に応じた対応による授業満足度の向上。 ・ICTをツールとして、効果的に用いて指導に生かす力を高める。
			家庭学習の定着に努める。	・理解度の不足する生徒には再指導を実施する。	A		
			基礎学力があり、数学に対して興味関心の高い生徒に対しては、さらに理解度を高める指導をする。	・課題を定期的に点検し、家庭学習の習慣をつける。	A		
				・課外を実施し、興味関心を持続させ高いレベルまで到達させる。	B		
	理科		自然科学に対する興味関心を喚起する。	・実験、資料等の活用により授業を展開し、健全な自然観を持たせる。	B	B	・選択科目等開講授業科目の精選。 ・理系2クラスになったことへの対応：基礎なし科目のあり方や授業の進め方の検討。
				・発問等を工夫し興味関心を喚起し、自ら調べとめる機会を増やすように努める。	B		
			思考力・判断力・表現力をはぐくむ授業を展開する。	・校内研修を充実させ、ICTの効果的な活用を含め授業の改善と授業力向上を図る。	B		
			主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を育成する。	・探究の流れを意識した授業及び観察・実験を行う。	A		
				・グループワークを通し、授業に主体的・協働的に学ぶ姿勢の向上を高める。	B		
			学力の向上に努め、生徒の進路希望実現を図る。	・演習問題の精選及び課外の実施により、大学受験等に相当する実力養成に努める。 ・生徒の進路希望を実現できる教育課程の検討を行う。	B		
	保健体育		体力の向上(身体能力)を図る。	・基礎体力の増進のために体力テストの結果等を利用することで、主体的に授業に臨ませる。	A	A	・男女共習およびLGBTQ生徒への更なる対応の工夫。 ・低下傾向にある基礎体力や基本的技能の向上を図る。
			生涯スポーツにつながる、知識や運動の習慣を身に付ける。	・副教材を利用し、各種目のルールや特性等の理解を深め、スポーツのあり方を考えさせ、実践する態度を養う。	B		
			心身の健康の保持増進を図る。	・定期考査を実施し、※ヘルスプロモーションの理念を理解させる。(※自らの健康をコントロールし改善できるようにする活動)	A		
	芸術	音楽	音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、音楽の多様性についての理解を深める。	・ICT機器を活用し、適切な題材・教材選択を図り、魅力ある授業実践を目指す。	A	A	・本校の特色を生かした教育活動の充実。 ・音楽教材、備品の整備、充実。 ・個の能力に応じた実技指導。
			創意工夫して表現しようとする意欲を高め、そのために必要な技能を習得する。	・演奏発表の場や対話的な学びを通じて、互いの演奏や音楽表現に対する考え方について理解し、創意工夫ある表現を目指す。	B		
			生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていこうとする態度を養う。	・アンサンブル活動を充実させ、音楽活動の喜びを味わい、感性を高め、日々の生活をより豊かなものとする。	A		
		美術	造形的な視点を豊かにするための知識と、創造的に表す技能を身に付けさせる。	・基礎演習を効果的に行い、〔共通事項〕をもとに既習の知識や技能を生かして発展的に学びが深められるよう計画、指導する。	B	A	・制作プロセスの可視化による学びの工夫 ・AIとの比較や対話課題などの言語化により、表現の主体性を深める指導。
			表現における発想や構想と、鑑賞における見方や感じ方を深めさせる。	・表現と鑑賞の関連を図り、対話的な学びを通して発想や構想に関する資質・能力を高める指導の工夫を行う。	A		
			主体的に取り組む態度や生涯にわたり美術を愛好する心情、豊かな感性を育む。	・生徒のよさを多様な方法で評価し、主体的な表現への意欲を高めるとともに、学びの意義を実感させる活動の充実を図る。	A		
		書道	古典学習の意義と基礎技術向上に努める。	・用具用材に対する意識づけを行う。	A	A	・1学年の文房四宝に対する意識づけを更に高めて行きたい。 ・苦手意識を持った生徒を、どのようにして授業に目を向けさせるか、細やかな配慮が必要となる。水戸市内には優れた芸術作品を展示している美術館などの施設があるので、できるだけ生徒に鑑賞の機会を設け理解を深めさせたい。 ・ICTの活用推進。
				・全体指導及び個別指導において書道の基礎的スキルを高める。	A		
				・作品整理ノートやタブレット端末等を十分に活用する。	A		
				・作品提出の徹底を図る。	A		
				・書のおよさや美しさを感じ、書的美を味わうことができるようにする。	A		
				・感性を豊かにするために、書道分野だけでなく美術的内容を取り入れて興味を持たせる。	A		
			創作に対する興味を持たせ個性の伸長を図る。	・作品を大切にすることを養う。	A		
	英語	基礎学力の定着を図るため、授業力向上を目指す。		・小テスト・週末課題を実施し、学習の理解度を把握する。	A	B	・学年間での年間指導の流れの再検討、シラバスを基にした学習の進捗を教科内で共有を改めて確認し、次年度以降も共有できるようにする。 ・ICTを活用した授業の進め方に加え、AIを活用した4技能の強化を目的としたツールを効果的に用いて指導に生かす力を高める。 ・各種検定試験に関しては、時代の流れや生徒のニーズに沿って変化に対応する形に変化していくことも必要である。
				・学習内容の定着のために質問の時間を設け、プリント教材等の工夫改善を図る。	A		
				・ICTの活用により、4技能を効率的に向上させる。	B		
			外国語の学習を通じて自国の文化や異文化に対する理解を深めさせる。	・教科書や副読本を読むことにより、文化の違いを理解させる。 ・ALTとの授業等を通じて、異文化と日本の習慣の違いを学ぶ。	A		
			自分の考えを積極的に発表しようとする態度を育成する。	・スピーチコンテストへの参加を積極的に促し、英語を話し理解しようとする態度を養成する。 ・ICTを活用した発表や活動を積極的に行えるよう、研究・実践する。	A		
				・大学入試におけるリスニングテストへの対応のために授業の中にリスニング教材を位置付ける。	B		
			現状より一段階上の目標に近づくために努力させる。	・各種検定試験(英検、英検CBT、リンガスキル、GTEC等)への参加を促し、各学年ごとの達成目標を設け指導する。	B		
					A		
	家庭		家庭生活を主体的に営む態度を育てる。	・生活に必要な知識と技術を習得させるための教材(実験・実習)を精選し、授業に生かす。 ・「一日家事体験」や「ホームプロジェクト」等の実践活動を行う。	A	A	・多様な生徒に応じた演習・実習の方法・配慮について具体的方策を検討する。 ・実験・実習を通した学びを充実させる。
			課題解決力向上のためのコミュニケーション力・プレゼンテーション力を育成する。	・実験実習を数多く導入し、ICT機器を活用したまとめとしてのレポート提出をさせる。また、発表会を行う。	A		
			多様な進路希望の実現を図る。	・将来の進路につながる学習を行う。	B		
			生徒の安全を確保した実験・実習環境の整備をする。	・施設・用具等の管理を徹底し、安全な実習環境を整える。安全管理チェックリストを作成する。	B		
	情報		情報活用のための技術の習得に加え、情報社会と人との関わりについて理解を深める。	・文書作成、表計算、プレゼンテーションソフトの基本操作を習得する。 ・情報に関する法規や制度、情報セキュリティの重要性、責任及び情報モラルについて理解する。	A	A	・AIを積極的に活用し読解力・論理的思考力の向上を図る。 ・さまざまな情報を扱うなかで必要となる情報モラルの育成は見直しを図る必要がある。
			問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。	・受け手に分かりやすく情報を伝える活動を通して、適切かつ効果的な情報デザインを考え、活用する力を養う。 ・プログラミングやシミュレーションによって問題を発見・解決する活動を通して、問題の適切な解決方法を考える。	B		
				・課題学習を通して、自分の考えや意見をまとめ、各自がプレゼンテーション制作を行う中で、情報発信者としての態度を養う。	A		
			情報社会に主体的に参画する態度を育てる。		B		
				・IT化が進むことで暮らしが変化することを前向きに捉え、主体的に取り組む姿勢を養う。	A		

教務	校内研修を充実させ、授業力の向上に努める。 各部、各学年及び各教科が効率的に機能するよう全職員の共通理解を図る。 教育課程を円滑に推進する。	・ICT機器(タブレット)を活用した授業の校内研修を行い、授業の改善と授業力向上を図る。 ・教師の指導改善及び生徒の学習改善につながる学習評価を設定し、授業力向上を図る。	A	B	・授業力向上、生徒の学習改善につながる学習評価について、引き続き検討を進める。 ・校務分掌の業務内容見直しに伴い、仕事内容の共有、業務効率化の工夫がさらに必要になる。
		・各学年・部・学科の意見・要望を集約しながら資料を共有し、校務の「みえる化」を図る。	B		
		・生徒の進路希望・実態に対応したカリキュラム・マネジメントを行う。	B		
		・学校パンフレット等を活用し、本校の教育活動の取り組みや成果、特色等を積極的に情報発信する。	B		
		・学校説明会や学校公開等を通し、本校の教育活動の取り組みを保護者や中学生へ周知する。	A		
特別活動	生徒が主体となってホームルーム活動や生徒会活動、学校行事を行う。	・自己や集団の課題を見だし、合意形成や意思決定する場をLHR等で設ける。 ・生徒会本部役員や各種委員会が学校行事運営の中心となるよう支援する。 ・体育的行事を実施し、運動に親しむ態度や集団への帰属意識を育む。 ・文化的行事を実施し、文化や芸術を親しむ姿勢や創造性、表現力を育む。 ・特別活動における生徒の主体的活動に資するICTの活用法を研究・実践していく。 ・キャリアパスポートの活用法を研究・実践していく。	B A A A B B	B	・HRや行事での生徒の自主的な運営や活動の推進とその支援。 ・生徒会行事の充実。 ・部活動加入率の向上、および部活動の整備と活動環境の支援。
	部活動を活性化し、学習との両立を目指す。	・特色選抜入試を実施している部活動を中心に、上位大会への進出を目指す。 ・生徒への部活動への積極的な参加を促すとともに、男子部活動について整備する。 ・部活動の活動方針や内規に記載されている活動時間を守るよう、練習方法の工夫や効率化を図るための支援をする。	B B B		
生徒指導	生徒が三高生としてのプライドを持ち、自主的にルールを守れるよう、自己形成を図る。 教職員間の共通理解を深め、共通の指導体制を構築する。	・高校生としての基本的生活習慣、規範意識の育成を授業・HRのみならず、学校の諸活動全体の中で自主的に培える援助を行う。 ・教室環境の整備・改善を協力して行うことにより、落ち着いた環境の中で望ましい人間関係の構築をさせていく。 ・年度始めにおける内規・校則等の周知を図るとともに、指導基準・手順等の見直しを必要に応じて行う。 ・生徒の実態把握(生活実態調査、アルバイト許可、自転車交通関係)を担当・学年と連携して行い、問題行動の防止に努める。	B B B B	B	・教員間の連携をさらに図り、共通理解を深めて指導を行えるようにする。 ・スマートフォン、タブレット等の通信機器の適切な使い方及び校内における使用ルールの徹底を図る。 ・不審者やつきまとい被害等の未然防止のために、水戸警察署とのさらなる連携をはかる。
		・PTA総会や各学年PTA集会等において、積極的に生徒の実情の報告、意見交換を行い、大人や社会の視点からの指導を行う協力を呼びかける。 ・水戸警察署との連携により、生徒の何気ない身なり・行動でも不審者等の誘因になっていることを知らせ、自己の行動を改めるきっかけにさせる。	A B		
	生徒の進路希望の実現を図る。 生徒の進路に対する意識の高揚を図る。	・生徒の進路希望に応じ休日課外・平常課外を計画、実施し、生徒の学力養成をはかる。 ・生徒の進路指導室利用を促進し、進路相談の充実を図る。 ・学年・教科との緊密な連携により、生徒の進路希望に応じた推薦入試対策や小論文指導などを検討、調整、実施する。 ・各学年に応じた進路行事(大学見学会、大学模擬授業、進路講演会)を実施し、生徒の意識を高める。 ・インターンシップ(看護師体験など)や様々な社会体験を促し、進路に対する意識を高める。 ・生徒面談等で分析ソフトやインターネット等を積極的に活用し、効果的かつ効率的な進路指導を図る。	A B B A B A		
		・定期的な進路希望調査を実施し、生徒の実態把握に努める。 ・進路だよりを通して、進路等における情報等を保護者に提供する。 ・進路の手引きを作成し、その効果的な活用を進める。	A A B		
	保健管理指導を徹底し、健やかな心身と生きる力を育成する。 環境整備に努め、また、防火管理を徹底する。 教育相談を有効に活用し、学校不適応生徒に適切に対応する。 進路希望が実現できるように奨学金等で支援する。	・けがの防止に努め、安全を最優先して生活できるように配慮する。 ・各種講話、「ほけんだより」等による健康管理予防の啓発に努め、自分の体調について自己管理させる。 ・長寿命化工事できれいになった校舎の清掃面での維持を行う。 ・火災、震災、及びその他の災害への対策を、外部機関とも連携して講じていく。 ・スクールカウンセラーや学年・保護者との連携をコーディネートし、生徒の心的問題の解消を支援していく。 ・様々な奨学金について周知し、必要な生徒に有効利用してもらう。	B A B B A B		
図書	図書館の利用を促進し、書籍の管理につとめる。 館内環境を整え、快適な読書空間と学習の場を提供する。	・新着図書案内を定期的に発行し、本の利用を促進する。 ・小論文・総探関連蔵書の充実を図る。 ・蔵書点検を行い、蔵書・各種資料の管理・整理に努める。 ・館内を常時清潔に保ち、読書や学習する環境を整える。 ・放課後学習のために延長開館し、生徒に継続的な学習習慣を身につけさせる。	A B A B A	B	・委員会活動の活性化(確実な委員会活動の実施、図書委員主催のイベント開催など)。 ・選書の工夫(生徒の要望をより反映させた幅広い書籍の提供など)。 ・図書館の利用促進。
		・図書委員会の活性化を図る。 ・放送委員会の活性化を図る。	B A		
	図書委員会 放送委員会	・カウンター当番・図書館便り・校外の研修会等に積極的に参加させる。 ・全校行事に伴う放送関係の仕事に積極的に関わらせる。	B A		
情報管理	校内LAN(公務・生徒セグメント)の安全性を高めて.利用の促進を図る。 情報活用能力や情報モラルの向上を図る。	・セキュリティ対策を行い安全性を高めるとともに、個人情報漏洩等のインシデントを予防する。 ・共有している情報機器や電子データの維持管理を行う。 ・生徒のBYOD端末の利用を推進し、教職員のICT活用を支援する。 ・研修会や動画等をおして、Google Workspace for Education Plusの有効的な活用を支援する。	A A B A	B	・部署解体に伴う業務継承。 ・欠時数を日々集計にすることの検討。 ・HPのコンテンツを整理、ブラッシュアップする必要あり。
		・広報活動に協力する。 ・迅速・正確な成績処理に努める。	C A		
	PTA総会の保護者の出席率を向上させる。 保護者や地域との緊密な連携を図る。	・日程や授業参観のあり方を工夫する。 ・PTA総会の内容を工夫し、効率的運営を図る。 ・PTA各種委員会の活性化を図る。 ・保護者や地域の意見要望を検討しその対応を図るとともに、広報誌やHPなどを通して情報を提供し、理解、協力を得られるように努める。	B B B A		
渉外	PTA総会の保護者の出席率を向上させる。 保護者や地域との緊密な連携を図る。	・PTA総会で演奏等のアトラクション復活検討。 ・現状の総会日程で、委員に軽食の提供。 ・PTA学年委員会回数の削減。 ・慶弔費の見直し。	B B B A	B	

音楽科	音楽に関する専門的で多様な内容についての理解を深め、音楽表現に必要な技能を身に付ける。	・専門科目の精選を図り、主体的に音楽に取り組む姿勢を育成し、音楽的な能力の向上を目指す。	A	A	・楽器等備品の整備と修繕。 ・個に応じた進路指導と、心身の育成。 ・地域や大学などとの連携の強化。 ・音楽棟全体の教室整備。
		・卒業演奏会やボランティア演奏、各種コンクールへの積極的な参加など、様々な演奏披露の場を通じて、知識及び技能の習得と音楽文化の発展に寄与する態度を養う。	A		
		・定期的に公開レッスンを実施し、技術向上への意欲を高め、表現の多様性について理解を深める。	A		
		・鑑賞する機会を積極的に設け、音楽的な見方考え方を働かせ、より音楽的視野を広げようとする意欲を養う。	A		
		・音楽科ホームページの充実や中学校訪問など広報活動を積極的に行い、音楽科の教育内容や生徒の活躍の様子について知ってもらい、安定した志願者の確保につなげる。	A		
		・地域と積極的な連携を図り、生徒の希望に応じた計画的で、きめ細かいキャリア教育を行う。	B		
家政科	活躍の場を広げるために様々な活動への積極的な参加を図り、主体的な実践力育成に努める。	・生徒の企画・運営によるファッションショーを実施する。	A	A	・課題研究の指導法・評価法について研究を深める。 ・家政科生徒の希望に即した進路指導計画を具体的に立てる。 ・家政科の学びについて周知し、生徒募集につなげる。
		・課題研究の指導法を共有し、課題研究発表会において成果を発表できるようにする。	B		
		・地域と連携した活動への参加を促す。	A		
		・各種コンクール(被服関係・食物関係・保育関係・生活産業に関するもの)への参加を促す。	A		
		・家庭クラブにおいて訪問活動やものづくり活動、さらに県連行事への参加を継続し活動の充実を図る。	A		
	生徒の技術向上を図り、専門性の高い授業展開に努める。	・全国高等学校家庭科技術検定に取り組み、技術向上を図る。	A		
		・各分野の専門家による出張授業を実施する。	A		
	進路指導の充実に努める。	・家政分野のリーダー育成となり得る進路指導を計画的に実施する。 ・HPでの広報活動等により家政科周知を行い、関心の高い生徒募集を図る。	B A		
1学年	基本的な生活習慣を確立させ、集団生活のマナーを身につけさせる。	・挨拶を励行し、適切な言葉遣いを身につけさせる。	A	A	・家庭学習時間の確保(進路目標設定とともに自主的な学習時間の確保に向けた指導の在り方の構築する)。 ・より一層のタブレット端末の活用。 ・保護者への情報発信の在り方(Eメールでの情報発信に代えた方法の導入)。
		・遅刻の防止、時間厳守を徹底する。	A		
		・机上の整理や清掃の徹底を行い、学習環境を整備する。	B		
	学習習慣を確立し、基礎学力を確実に身につけさせる。	・授業開始時間の厳守など、授業を大切にする姿勢を持たせる。	A		
		・予習復習を習慣化させ、家庭学習時間を確保させる。	B		
		・授業に対して主体的に取り組ませ、タブレットの活用を推進させる。	A		
	自己の可能性を探りながら卒業後の進路についての目的意識をもたせ、適切な文理選択および進路選択ができるように指導する。	・自己の適性を把握させ、進路に関する情報を収集させると共に、保護者に対しても情報を発信し、理解を求める。	B		
		・生徒との面談や保護者との面談を通して信頼関係を築き、適切な進路助言を行う。	A		
		・進路ガイダンスや進路講演会を実施し、積極的にオープンキャンパスや模擬授業等を体験させる。	A		
	特別活動への積極的な参加を促す。	・部活動・生徒会への積極的な参加を促す。	B		
2学年	安定した生活習慣を基本とし、中核学年としての自覚を持たせ、集団生活を営むためのマナーを向上させる。	・挨拶の励行を継続し、TPOに応じた言葉遣いと服装、周囲のことを考えた行動ができるよう生徒の自覚を高める。	B	B	・修学旅行に関しては、平和学習である程度の成果が見受けられた。集団行動も概ねできていた。他者を思いやる行動については、問題も見受けられ、次年度への課題を残した。 ・進路指導については、年間の予定通りに行事をこなすことができ、講演会等も有意義なものとなった。ただ、まだ進路について未定の生徒も見受けられるので、継続的に指導していく必要がある。面談はしっかり行うことができているので、引き続き個に応じた指導を徹底していきたい。
		・スマートフォンやタブレット等の適切な利用を含めて、生活面での中だるみを防止する指導に努める。	B		
		・修学旅行も視野に入れながら、他者への思いやりに基づいた集団行動が着実にできるよう、見渡す力の形成及び自己管理能力向上の指導に努める。	B		
	授業を中心とした予習・復習の学習習慣を確立し、基礎学力から探究的な学習につながる学力を確実に身につけさせる。	・教材や指導法を工夫し、授業を大切にし、主体的、対話的に取り組む授業展開に努める。	A		
		・総合的な探究の学習も含め、予習・復習を習慣化させ、効率的に家庭学習時間を実施するように努める。	B		
		・ICT等を活用しながら、個に応じた指導を実施し、基礎学力の定着を図る。	B		
	社会や地域との関わりを意識しながら、自己の可能性や適性を最大限に生かす科目選択・進路選択ができるように指導する。	・面談等を通じ、自己の適性を把握し、進路に関する情報を収集させ、共通テストや採用試験に向けての対策を図る。	A		
		・進路講演会やガイダンス等を通して進路に関する情報を提供し、進路意識を高める指導に努める。	A		
		・各種講習会や公開講座等への積極的参加を促し、進路実現のためのキャリアアップを図る。	B		
3学年	基本的な生活習慣を確立し、最高学年としての自覚に基づく円滑な集団生活を営ませる。	・部活動や学校行事の中心的存在として模範的な態度の育成及び自覚ある活動を促す。	B	B	・年内に進路決定をする生徒が増えていく中で、様々な資格取得を周知していく。 ・生徒の多様な進路に対し、個別の対応が求められることが多くなってきていることへの共通理解を図りながら、進路活動を進める。 ・校務分掌の学年の連携を密にし、学年での対応ではなく学校全体の組織としての対応を検討する。
		・挨拶を励行し時間厳守を継続する等、場にふさわしい行動ができるように努める。	B		
		・スマートフォンやタブレット等の使用、制服の適切な着こなし及び適切な言葉遣いができるよう指導に努める。	B		
	授業を中心とした予習・復習の学習習慣の上に、進路実現できる学力を身につけさせる。	・最高学年として周囲を気遣った行動ができるよう、自己抑制能力の向上を図る。	B		
		・授業や朝学習の開始時間に学習体制を整えることを通じ、時間管理を徹底させる。	A		
		・授業に対して主体的・対話的・協働的に取り組ませ、学力のさらなる慎重を図る。	B		
		・希望する進路実現のための課外指導の充実を図る。	A		
	3年間の集大成として、自己の可能性や適性を生かす進路選択をし、進路目標を達成できるよう支援する。	・適時適宜な面談等を行い、生徒の能力や適性に応じた進路選択ができるように促す。	A		
		・進路講演会等を通して進路情報を継続的に提供し、生徒が高い志を持続できるように努める。	A		
		・各種講習会や公開講座・検定試験等への積極的参加を促し、進路実現のための自己研鑽に努める。	B		
	特別活動への積極的な参加を促す。	・学校行事や部活動等で、生徒が達成感を味わいつつ後輩に継承できるように促す。	B		

評価基準：A(達成できた)、B(だいたい達成できた)、C(達成できなかった)の3段階